

令和元年12月26日
東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標題 多伎いちじくの出荷成績が大幅に向上（ネコブセンチュウ対策に効果）

（ダイジェスト）

12月24日、JAしまね出雲地区本部多伎いちじく部会振興大会が開催され、今年が多伎いちじくは出荷量、販売額とも大幅に増加したことが報告されました。昨年から部会ぐるみで取り組んだネコブセンチュウ対策が大きな要因となりました。

今年度の多伎いちじく部会の出荷成績は、栽培面積が16.4haから1haあまり減少したにも関わらず、出荷量144t（前年比126.8%）、販売額8,253万円（同121.0%）と計画を上回る好成績を上げました。

好成績の要因としては、生育初期から天候に恵まれたことに加え、ネコブセンチュウ対策を行ったことが大きな要因だったと思われます。

多伎いちじくのネコブセンチュウ発生ほ場では樹勢低下を招いており、昨年5月出雲市とJAが行う「出雲農業未来の懸け橋事業」を活用し対象農薬の半額助成を受け、栽培農家の約半数にあたる40戸が対象農薬を散布しました。

H31/H30の出荷量の伸び率は全体では127%でしたが、散布した農家の伸び率は139%、散布しなかった農家は112%と大きな差が出ました。

今回の振興大会ではこの結果を説明し、来年産は全組合員が対象農薬を施用するよう指導を行いました。来年1月中旬に行われる地区別座談会においても全組合員に指導を行い、部会ぐるみで樹勢回復に取り組むように推進する予定です。



（ネコブセンチュウにより衰弱した樹）

（農薬施用により樹勢回復した樹）